

薬剤部 DI ニュース

オーラルフレイル・口腔機能低下・嚥下障害に配慮すべき薬剤について

➤オーラルフレイルとは、口腔の機能が健常な状態「健口」と「口腔機能低下」の中間に位置する状態を指す概念である。具体的には、噛みにくさ、食べこぼし、むせ、滑舌低下といった症状が現れる段階で、加齢に伴い生じる口の些細な衰えが蓄積した状態であり、この段階で放置すると口腔機能の問題だけでなく、将来的に身体的フレイルや要介護状態、さらには要介護状態や死亡のリスクが高まることが報告されている。(Fig.1)

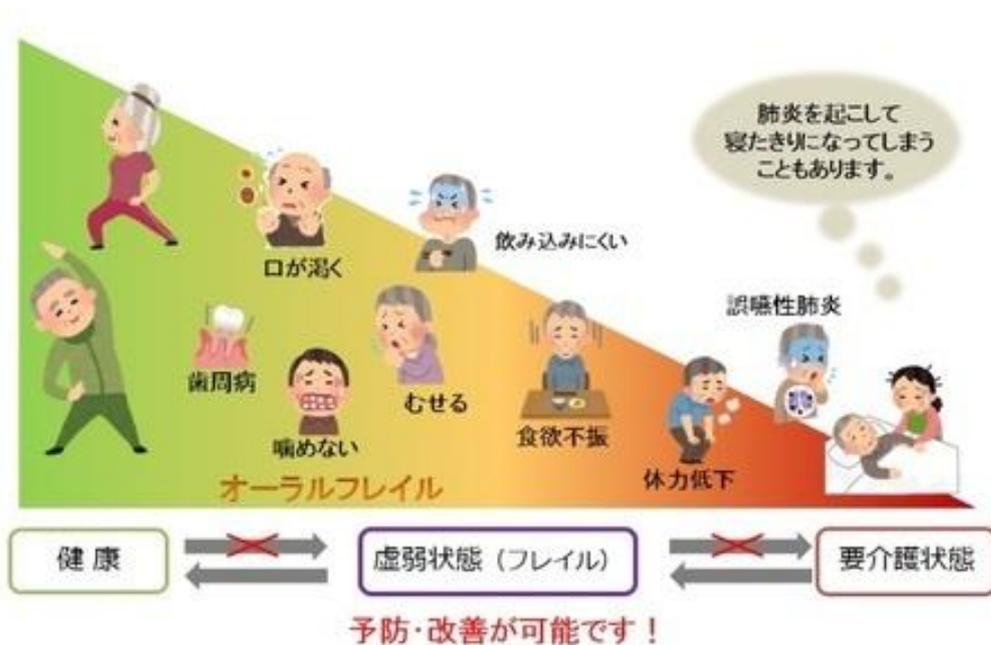


Fig.1 オーラルフレイルの位置づけと症状

➤オーラルフレイルの簡便な評価法として、オーラルフレイル5項目チェック (OF - 5) が提唱されている。Table.1 に示す5つの質問項目から構成され、各項目について該当 (リスクあり) か非該当かを検討し、5項目中2項目以上が該当した場合にオーラルフレイルと判断する。例えば「残存歯数が20本未満」で「汁物でむせることが増えた」場合は、オーラルフレイルになる。

Table.1 オーラルフレイル5項目チェックの内容と判定基準

質問項目 (チェック内容)		該当基準
① 残存歯数減少	自身の歯が何本あるか	0~19本
② 咀嚼困難感	6カ月前に比べ硬いものが食べにくくなったか	はい
③ 嚥下困難感	お茶や汁物でむせることがあるか	はい
④ 口腔乾燥感	口の渇きが気になるか	はい
⑤ 滑舌低下	普段の会話で言葉がはっきり出ないことがあるか	はい

➤口腔と嚥下問題に関連する可能性がある薬剤として、①唾液減少に関与する薬剤、②運動機能緩慢につながる薬剤、③味を変化させる可能性がある薬剤を鑑別し、可能な限り減薬や中止を検討する (Table.2)

Table.2 オーラルフレイル・口腔機能低下・嚥下障害に配慮が必要な薬剤

種類		例
唾液減少に関与する薬剤	抗コリン作用を有する薬剤	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンゾジアゼピン系高精神薬 ・抗ヒスタミン薬 (レスタミン、ルパフィン、レボセチリジンほか) ・定型、非定型抗精神病薬 ・三環系抗うつ薬 ・抗コリン性抗パーキンソン病薬 (アーテン) ・消化管鎮痙薬 (ブスコパン) ・頻尿、過活動膀胱治療薬 (ソリフェナジン、イミダフェナシンほか) ・吸入用抗コリン薬 (スピリーバ)
	体液量減少に関与する薬剤	<ul style="list-style-type: none"> ・利尿薬 ・降圧薬 (RAA 系阻害薬) ・SGLT2 阻害薬 (フォシーガ、ジャディアンス、カナグルほか) ・抗精神病薬 (体温中枢抑制) ・下剤
運動機能緩慢につながる薬剤	意識レベルや注意力低下に関与する薬剤	<ul style="list-style-type: none"> ・向精神薬 ・鎮静薬 ・抗てんかん薬 ・抗ヒスタミン薬 ・オピオイド鎮痛薬 ・筋弛緩薬 (エベリゾン) ・ドパミン受容体作動性抗パーキンソン病薬 (プラミペキソール)
	筋力低下作用を有する薬剤	<ul style="list-style-type: none"> ・筋弛緩薬 ・芍薬甘草湯
味を変化させる可能性がある薬剤	唾液減少に関与する薬剤	<ul style="list-style-type: none"> ・上記のとおり
	味覚・嗅覚に影響する薬剤	<ul style="list-style-type: none"> ・抗がん剤 ・クラリスロマイシン、ミノサイクリン ・降圧薬 (イミダプリル、エナラプリル) ・抗てんかん薬 (カルバマゼピン)

参考文献；

- ・前田圭介 月刊薬事 2025(vol.67 No.7)
- ・広島市 HP 口腔ケアでフレイル対策(<https://www.city.hiroshima.lg.jp/living/fukushi-kaigo/1021243/1021986.html>)2025/6/1 閲覧
- ・各種添付文書

(薬剤部 長ヶ原)